



20万分の1地質図幅の新刊

# 大多喜

## ŌTAKI

20万分の1地質図幅  
地域地質研究報告

著者 三梨 昂

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

自然条件がよく また東京に近いこともあって 房総半島中部に位置する大多喜地域は 日本でもっとも良く地質調査されている地域の一つである。 そのためにいち早く有孔虫・花粉などの微化石や古地磁気など 先端的な研究の舞台になり ヨーロッパの新第三紀・第四紀層の模式層序との関係が議論されたり また 一枚一枚の地層を対比して その堆積過程を議論するといった他の地域ではなかなか困難な研究の舞台ともなっている。

図からもわかるように 本地域は ほとんど古第三紀(一部白亜紀?)・新第三紀・第四紀の地層から構成さ

れている。 それらは 下から嶺岡層群(白亜紀?~古第三紀)・保田層群(古第三紀~前期中新世)・三浦層群(中新世)・上総層群(鮮新世~中期更新世)・下総層群(後期更新世)に区分されている。 嶺岡層群・保田層群中には 蛇紋岩・玄武岩や 少量ではあるが閃緑岩が貫入・噴出している。 また結晶片岩の小露頭が 鴨川南東方の海中に知られている。

嶺岡層群・保田層群は 構造がひじょうに複雑で 層序・構造の解明は 今後の課題になっている。 両者は 断層関係で接している。

三浦層群は 下位層に不整合関係で重なる。 同層群は 下位から佐久間層・木ノ根層・天津層・清澄層・安野層に区分されている。

本層群中には 図にも示したように OK・HK と名付けられた顕著な凝灰岩鍵層が発達し 房総半島のみならず 三浦半島にまで追跡されている(20万分の1横須賀参照)。

三浦層群の上に 上総層群が不整合に重なる。 この不整合は黒滝不整合とよばれ 上総層群の下部層は この不整合に斜めにぶつかるような関係で接している。

上総層群は 下位から勝浦層・浪花層・大原層・黄和田層・大田代層・梅ヶ瀬層・固本層・柿ノ木台層・長南層・万田野層・笠森層に区分されている。 上総層群には図にも一部示しているように 多くの凝灰岩鍵層が挟まれ ひじょうに広い範囲に追跡されている。

上総層群上には 下総層群が不整合に重なる。 本層群は 図巾北西部に小分布するにすぎない。

本地域には 元清澄山付近に 東西方向の清澄背斜 その南にやはり東西方向の向斜構造が発達している。

図巾東部には 南北の一般走向をもつ正断層の発達がいちぢるしい。

地質ニュース	第319号	3月号
	定価 ¥500	千実費
昭和56年3月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951(代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	